

令和5年度第4回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和5年7月22日（土）9時～10時30分、11時～12時30分の2回

テーマ：夏休みだ 夏の昆虫大集合！

場 所：茨城県霞ヶ浦環境科学センター野外施設（いきもののにわ周辺）

講 師：石塚武彦先生（ミュージアムパーク茨城県自然博物館 主査）

西元重雄先生（県立水海道第一高等学校 教諭）

内 容：

夏休みで多くの昆虫が活動する時期に、子どもたちを中心に、霞ヶ浦環境科学センター野外施設で昆虫採集の体験をします。そして、身近なところでさまざまな昆虫が生活していることを学びます。さらに、小さな命の尊さや自然の大切さを考える機会とします。

参加者：67名（子供36名、保護者31名）

1回目 38名（子供20名、保護者18名）

2回目 29名（子供16名、保護者13名）

担当職員：3名

パートナー：6名

結 果：

この観察会では、センター敷地内のいきもののにわ周辺で、捕虫網を使って昆虫を採集し観察しました。

採集の前に、講師の先生から、捕虫網による昆虫の捕り方、捕れた昆虫の持ち方、採集できそうな主な昆虫についての観察のポイントなどを説明していただきました。

いよいよ採集と観察です。参加者の皆さんは親子で熱心に採集や観察に取り組み、いろいろな昆虫を観察することができました。参加者が採集した昆虫は、吹き流し（採集した昆虫を入れる筒状の網）に集め、最後に全員集まって、先生に解説していただきました。

1回目、2回目と暑い中、長時間にわたりご指導いただいた、石塚先生、西元先生、本当にありがとうございました。

講師の先生に解説していただいた主な昆虫

1回目

○キリギリス

キリギリスは最近減っている。キリギリスがギーチョンとよく鳴いているが、草に隠れていて姿を見ることは難しい。最近、キリギリスはヒガシキリギリスとニシキリギリスに種が分かれた。触角の長さでバッタとキリギリスの仲間は区別できる。触角が短いのがバッタの仲間、触角が長いのがキリギリスの仲間。

※採集はできなかったが、録音した鳴き声を聞きながら解説していただいた。

○カブトムシ

カブトムシの成虫は越冬することはない。日本にいるカブトムシ類は1種と思われがちだが、実は4種いる。カブトムシのほかコカブトムシが広く分布している。他の2種は沖縄などにいる。北海道にカブトムシは分布しないが、本州から持ち込まれたものが定着している。

○クルマバッタモドキ

トノサマバッタとクルマバッタ、クルマバッタモドキは似ているので見分けが難しい。クルマバッタとクルマバッタモドキは後翅に茶色い筋の模様があるが、トノサマバッタにはない。クルマバッタモドキは胸の背部分にくの字の模様があるが、クルマバッタにはその模様はない。

○ノコギリクワガタとコクワガタ

クヌギの根元などにクワガタ類が見られた。ノコギリクワガタは角（顎）が弓なりになって大きい、コクワガタに似た角の小さい個体もあった。見分け方は、ノコギリクワガタの体色は赤茶色、コクワガタは黒、ノコギリクワガタの体形はコクワガタに比べて立体的。ノコギリクワガタの成虫の大きさは、幼虫の時にどれだけ栄養を取ったかで決まり、成虫になってからは成長しない。

○ツチイナゴ

バッタ類は卵で越冬するのに対し、ツチイナゴは成虫で冬越しし、春卵を産む。今頃みられるのは幼虫で、成虫になるのは晩秋のころである。

○ゴマダラカミキリ

採集できたのは日本に広く分布する在来のゴマダラカミキリだったが、最近よく似た外来種ツヤハダゴマダラカミキリが分布を広げている。よく似ていて見分けるのは難しいが、胸部の背中に白い斑紋があるのが在来種、ないのが外来種。外来種は果樹などに大きな被害を与える危険性があるといわれるので、見つけたら連絡してほしい。

○イトトンボ類

今回の観察で、オオイトトンボ、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボが採集できたり観察できたりした。多くのイトトンボ類が観察できる環境が少なくなっており、このような場所は県南部ではなかなかない。

○ショウジョウトンボ

真っ赤な色が特徴であるが、赤とんぼの仲間ではない。ビオトープの水辺に1匹でいたが、これはオスがなわばりをつくっている様子で、メスが来るのを待っている。

赤トンボの仲間では、アキアカネやナツアカネを見ることができるが、今の季節はアキアカネは高い山に行っている。ナツアカネはまだ赤くなく、この辺の林の中にいる。

○ナミアゲハ

翅の色が黄色いアゲハチョウにナミアゲハとキアゲハがいるが、翅の中央上部が黒く塗りつぶされていたらキアゲハ、黒と黄色の縞であればナミアゲハ。

○シジミチョウの仲間

シジミチョウの仲間は、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ツバメシジミを見ることができた。ヤマトシジミとツバメシジミは似ているがツバメシジミは後翅にオレンジ色の斑紋がある。幼虫の食草はそれぞれ異なっている。

2回目

○シオカラトンボ

トンボの腹部は10節からなり、前から2節目のところにひげ状のようなものや突起のようなものがあればオス。この部分を副性器という。オスは交尾する前に腹部の先（付属器）

にある精子を自分で副性器に移しておく。交尾の際、メスはここから精子を受けとって受精する。トンボは交尾するとき、オスがメスの頭のつけ根を尾部で挟んで連結するので、連結の前がオスで後ろがメス。

※採集した個体と写真を使って、トンボの生殖を詳しく再説していただいた。

○タマムシ

タマムシの体色は、天敵である鳥が嫌がるキラキラした色で、お昼ごろ飛ぶことが多い。タマムシの体色は構造色といって虹色の色素を持っているわけではなく、CDの裏面がキラキラ輝くのと同じ現象。タマムシは防虫剤や装飾品の材料として利用された。法隆寺に所蔵される玉虫厨子は、タマムシの翅を使って作られている。

※タマムシは取れなかったが、死んでいた個体が採集できたので、これを見ながら解説していただいた。

○ショウリョウバッタ

緑色型と褐色型が見られるが遺伝的な違いといわれる。メスよりオスの方が小さい。似ているショウリョウバッタモドキとの違いはショウリョウバッタの頭部は斜め上に突き出すような恰好をしているのに対し、ショウリョウバッタモドキは背中から頭までまっすぐ。

○1回目に解説した昆虫で2回にも解説があったもの

キリギリス、カブトムシ、イトトンボ類、ノコギリクワガタとコクワガタ、ショウジョウトンボ、ゴマダラカミキリ、ツチイナゴ。ナミアゲハとキアゲハ。

さらに、1回目、2日目の解説の最後に西元先生から、昆虫を飼育すること、また昆虫を採集して標本にすること意義、注意点などをお話いただいた。

飼育については、先生が飼育しているオオクワガタ、スマトラオオヒラタクワガタ、ニジイロクワガタ、ヨロイモグラゴキブリを見せていただき、その場所には生息していない昆虫を最後まで責任をもって飼育し、逃がさないようにすることが大切であることをお話しいただいた。また、標本については、奄美大島で採集した昆虫の標本を見せていただき、生きものの命を奪ってまで標本にすることの意義などをお話しいただいた。

第4回霞ヶ浦自然観察会



エントランスホールに集合して開会式と事前説明



いきもののにわに出て昆虫採集開始



ビオトープの周辺でトンボを狙う



シオカラトンボをチョキでつかまえる



吹き流しに昆虫を集める



石塚先生の解説ーギリギリスの鳴き声



西元先生の解説ーカブトムシについて



特別展示「あつまれ霞ヶ浦の昆虫展」を観覧